

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770700098
法人名	営利法人 株式会社 メディカル・ケアサービス
事業所名	グループホーム ミモザ園
所在地	香川県東かがわ市白鳥1754番地1
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 27 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770700098-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 7 日

【A棟が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症でも出来る事を維持、もしくはできなかった事が出来るようになる支援を行っています。精神面のフォローを行い強制せず、その人に寄り添ったケアでその人の想いや本当の姿が見えてくると信じBPSDが強く現れた時にも職員は利用者様の笑顔を引き出すようなアプローチをしています。脳トレや作品作りも個々の能力に応じた支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域医療連携を主としている。3ユニットの管理者三人の意見が違つたと「なぜ？」と、自問自答しながら、施設長を巻き込み、ベクトル調整をして実践している。現在、コロナ禍で外出が出来ない事を何か別の楽しみはないかと考察し、クッキング・レクとして新たに楽しみを増やしてみたら、「また、したい」と好評で、笑みが浮かんだ。前向きなアイデアを考える職員の集まりがあり、施設を盛り上げている。また、市の認知症イベントの依頼を受け、利用者が作成した大きな顔出しパネルの作品を展示したら好評となつたり、高校のマラソン大会の発着所となつて、休憩場所で、経口補助ゼリーを利用者が手渡ししたりして、エールを浴びる場となつたりして、利用者の人生を謳歌出来る一時ともなつた。地域の方と触れ合い、地域に当てにされ、地域と共に歩み、職員も、当たり前前を当たり前にして、生きがいを分かち合っていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんな一緒に育む幸せ」を理念として全職員が認識、実践に努めている。	理念は、玄関と中央のフロアに掲示し、ネームホルダーに常時携帯している。年度初めに、個々で目標を掲げ、ユニット長に報告し達成度を図ろうと取り組んでいる。新入職者には、1ヶ月、マニュアルに添って先輩社員と同行を介して、オリエンテーションを行い、理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染防止対策の為、日常的な交流が出来なくなった。地域の清掃活動には職員が参加している。地域住民の方が花を届けてくれている。	自治会(町内会)に加入し、地域の清掃活動や草刈り、集会に参加を続けている。市役所から展示会の出品依頼が来たので、事業所内の利用者が顔出しパネルの作品を出品した。また、高校のマラソン大会の発着場としてこの場所を提供して、利用者が経口補水液を手渡す事も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の作品展示会に出品して園の支援の成果を発信し認知症の人への理解に繋がった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止対策の為、園に来園してもらって行うことはないが二か月に一度、会議用の資料を関係者の方々に配布し情報交換やアドバイスをもらっている。	書面会議として隔月に開催をしている。市職員・民生委員・地域の代表・家族・法人代表が主なメンバーで、出来るだけ手渡ししているので、対面すれば情報交換の時間となっている。いつリアル開催出来るかな?と出口の見えない状況の先行きを気にし、地域の祭りの情報を交換している。	郵送はともかく、手渡しも増やして、一人一人の意見を聴ける様な質問をして、新しい取り組みを増やしては如何でしょうか?
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に連絡や相談をし協力関係、信頼関係を築いている。	窓口は施設長、ケアマネジャーが訪問している。年度替わりには、市職員も替わる事があるが、電話や出向していることで、何でも話せる関係となり、ざっくばらんな関係が築けている。	他の職員も出向いて、馴染みの関係を作っては如何でしょうか?
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の三原則を守り安易に身体拘束をしないよう常に工夫した援助を行っている。園内研修を年に二回実施。全職員に周知指導を行っている。	身体拘束はしていない。職員持ち回りで講師役を務めて、キャリアの浅い人の教育の場も兼ねて、プレゼン形式で学んでいる。3ユニットが連結しているので、夜間の不穏症状にも連携体制が整い、特に、夜間のスピーチロックも、夜勤者同士が集まって「いいよいいよ」とみんなが助け合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い法を厳守。職員同士で見過ごす事が無いように注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がついている利用者様が園には常時いる。来園時には話をさせて頂いている。職員が情報の共有できるように会議等で説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を行いご家族様の不安や疑問に対し理解、納得して頂けるよう十分な説明を行い支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染防止対策の為、サービス担当者会議等、電話で行う際に意見や要望を引き出せるよう職員に周知している。	利用者には、往診や訪問歯科の場面で話しやすい雰囲気を作ったり、訪問歯科の時、入れ歯の修理をして、土台も毎月交換した方が良いと指示があり、家族に連絡をして、「お金がいたり、毎月大変だけど、健康維持には必要なものでどうでしょうか？」と質問して実現となった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各棟会議、担当者会議を行い意見交換し問題点等を話し合い提案を引き出す機会を設け反映させている。	会議の類の場面では、ケアの方向性や具体的な手法に関する事だったり、妊娠中の職員の働き方に配慮した申送りがなされたりする。プライベートな事は、勤務時間に職員が管理者に、隙間時間に気さくに話せ、ゲートキーパー役もいて、安心できる風土となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じた職員配置をして各自が向上心を持てるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年間の園内研修計画を立て実施し、職員の資質向上に努めている。又、園外研修にも必要に応じ受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回、グループの医療福祉連携会議があり、その場で同業者との交流を図りサービスの質向上に取り組めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からコミュニケーション支援を図り要望を聞き全職員間で情報共有し本人の安心を確保する為、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族様に寄り添い悩みを傾聴、相談に乗り安心して頂けるよう信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時に」必要な支援はもちろん、その後の展開も見据えたサービスも提供利用に向けた支援対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	園生活ではあるが家での生活と同じように日常生活の延長のような暮らしを職員と利用者様一緒に行っている。趣味や余暇の時間を大切に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染対策により面会や外出外泊ができなくなったが、オンライン面会で家族と本人の絆を大切にしている。毎月写真を送り近況報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染防止対策の為、対面での面会ではできなくなったが、オンライン面会での案内をしている。本人に書いてもらって葉書きや手紙でのやりとりをしている。	on-line面会は好評。散歩コースやその敷地内の東屋、駐車場に咲く花、池の鳥・魚がいて、皆の馴染みの場所となっている。また、通院先の職員や通院途中が馴染みのドライブコース。靴の販売業者、米屋、牛乳配達、往診医等、施設に出入りされる方々は、すっかり馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等で交流を深めている。孤立予防として配席留意し会話等を楽しめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても経過を尋ね困り事や相談に応じている。次の移動先事業所の担当ケアマネージャーにも同様の対応を行い本人、家族を支えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの訴えや家族の会話の中から本人の想いを把握し汲み取っている。本人の希望に沿った生活が送れる様、職員や家族と検討している。	意向を表現する事が困難な方には、表情やしぐさなどで生活パターンを図っている。どんな方にも、目線を合わせて話を窺い、安心感を与える為に、時には、そっと手を握ったり、そっと肌を触れて話を切り出す。そんな関わりを持つ事で、穏やかな空間を生み出そうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴等を把握しているが聞き取りだけでは不十分な場合は外部提供を申請して取り寄せ公的な資料も参考材料にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタル測定、介護記録を記録し残している。状況把握が全員行えるような体制を整え支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中でニーズが発生すればその都度、検討し介護計画に反映させている。ケアマネージャー、ユニット職員が月一回集まり利用者のモニタリングを行っている。介護計画は異常がなければ三か月に一回、今は対面ではなく電話で家族からケアプランに対する意向を聞き話し合っている。(コロナ禍の為)	入居時のケアプランを1ヶ月後、その後は3ヶ月おきで見直ししている。モニタリングは毎月行い、プラン原案の作成時には、利用者・家族は元より、医療関係者の意見を盛り込んで、交付し実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス実践表や介護記録に記入しニーズや問題点があれば随時、検討し計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応できる様、応じている。透析患者の透析時間が変更された時に園の業務内容を見直し柔軟な支援を行った。サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍対策により対面ふれあい接触する地域の資源活用協働は控えたが三本松高校マラソン大会の休憩場所提供を行ったり地域住民からはお花を頂く等、利用者様に外出できなくても地域との繋がりを感じて頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿った医療機関で受診できる様、支援している。	入居時にかかりつけ医を選べるが、殆どの方が提携医に転医される。提携は職員が、他科は、家族が通院を介助する。かかりつけ医とは、何でも話せる関係となっていて、受診が楽しみとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や外来受診時に病院の看護師と情報共有し適切な受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ感染防止対策の為、入院中に病室の中に入れませんが病棟スタッフや地域連携室と連絡を取り合い関係づくりをし、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前から説明を行い方針を聞き共有している。入居後も何度も話し合いを重ねている。地域の関係者や協力病院ともチーム支援に取り組んでいる。	入居時の重要事項説明で、看取りはせず、重度化となったとき入院となる旨の承諾を得ている。重度化となったら、医師から今後について話が上がる。デスカンファレンスらしきことも、日々話し合い、生活介護のあり方に役立てようとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療行為は出来ないが定期的に研修等で訓練を行い実践力を身につける努力を絶やさないようにしている。対応マニュアルは各棟の壁に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ感染防止対策の為、消防署は来園しないが園独自で年二回の訓練を実施している。スプリンクラーも設置している。地域とは運営推進会議等で検討し協力体制を築いている。	年2回、地震・火災の日中想定訓練を利用者と実施している。スプリンクラーも設置している。緊急連絡網とマニュアルを用意して、活用がすんなりできるように掲示している。備蓄は、3日分(水・おかゆ・コンロ等)用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーに配慮した声掛けを行っている。尊厳を守った対応をしている。	呼称は、苗字に「さん」を付けるが、利用者二人きりの時、安心感を得て頂こうと、馴染みの呼ばれ方で話しかける事もある。入室時にノックや、肌の露出を出来るだけ抑える気遣いがある。何か失敗されても、平常心でその場の雰囲気乱さず関わる事を常としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情から本人の想いを察して声掛け等をして自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっているが一人ひとり本人のペースに合わせ強制しない介助方法を行っている。本人がしたい事を聞き出し希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒にその時期にふさわしい服装を選び、おしゃれができるよう支援している。衣服に興味を持ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	サバ禁の人には違うメニューを提供したり同じテーブルで職員と利用者が一緒に食事をし、食べ終わるとテーブル拭き等、一緒に片付けている。食事中、会話を楽しんでいる。	三食手作りで、おやつは買ってきて頂き、息抜きの楽しみとなっている。食事中は演歌のBGMが流れて和やかで、年間のレクリエーション計画にクッキングレクを盛り込み、ステイホーム期間の楽しみを分かち合っている。5～6人で囲める大きな円卓が印象的だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の食事摂取量や水分摂取量を確認記録している。医師の指示にて水分量や食事量制限を守っている。個々に応じた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所迄、誘導し口腔ケアを行っている。本人だけでは不十分な所を介助し清潔保持に努めている。夕食後は義歯を外し洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表活用にて各人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を促して自立支援を行っている。	排泄チェック表の活用と衛生材料の工夫が活きているので、機能維持や機能改善に成功した事例もある。ポータブルトイレは使っていない。そのようなケアが実践されているので、トイレ誘導は皆スムーズに行えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心掛けレクリエーションや体操で運動を促し便秘の人には個々に応じた服薬もされている。排便状況をチェックし便秘予防対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や本人の意思に沿った入浴支援を行っている。全利用者が週2回は入浴を実施できるように柔軟に対応している。入浴拒否者には何が原因か探り、工夫するようにしている。	入浴は週2回だが、希望があれば、出来るだけ回数を増やすように対応している。嫌がる方には、曜日を固定せずに、また、人を変えたり、言葉かけを変えたり、相性の合う職員が就く等して対応したりしている。入浴回数や衛生は保たれ、季節浴の菖蒲湯・柚子湯が風物詩となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて休息時間が取れるように声掛け促している。昼夜逆転を防止し良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし誰もがチェックできる体制を整えている。お薬手帳も棟で保管している。月に二回、薬剤師の訪問薬剤管理指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみ等のお手伝いで達成感を感じ生活歴を基に趣味や特技で楽しみ事を無くさないように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止対策にて園外レクリエーションや買い物等の外出を控えているが園内で気分転換ができるように考えて支援している。以前は園外散歩、花見や地域の行事に参加、外出支援していた。	散歩は、気候が良ければ、ほぼ毎日行い、車いすの方も、自走したり介助で散歩を楽しむ。洗濯物を干して頂いたり、天気の良い時には、中庭でガーデンカフェを楽しんだりして、ストレスやフラストレーションの解消となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常は事務所で預り金として保管している。コロナ禍になる前は買い物レクリエーションにてご自分でお金を使う楽しみも持っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを書いてもらい家族さまに送っている。利用者宛の郵便物は本人に渡している。読めない時は読んで聞かせる介助をしている。電話の他、オンラインで話せるようタブレットを使用して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場は毎日掃除消毒をを行い感染防止に努め清潔保持している。利用者様の作品を飾ったり花を飾り季節感を取り入れている。窓からは木々の緑や季節の花や果実が見える。	扉を開けると、バラの香りがほのかに漂い、明るく健康的なリビングで、ワイワイガヤガヤと盛り上がるゲームをしている風景に出くわした。ユニットコーナーで一望が見渡せる中央に位置したリビングは、広々とスポーツが出来る感覚で、安心感が高く、職員とたっぷりと話ができる心のやり場となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にテレビを置き一人で見たり他利用者様と一緒に見て過ごせる。棟出入口の扉横にはホール側にソファを置きくつろげる場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から説明しご本人の使い慣れた物、使いやすい物等を持ち込みしている。本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	落ち着いた色合いと木目を生かした内装で、質温湿度共にフロアが一定に保たれていた。介護ベッドとエアコンとカーテンが備え付けられ、本人の使い慣れた筆筒や飾り棚に使い慣れた小物が持ち込まれており、家族写真や家族からの贈り物に囲まれた我が家らしさ感が良く伝わってきた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には手摺りを設置しバリアフリーになっている。浴室にはバスグリップや滑り止めマット使用。トイレ洗面所、風呂場には表示しており場所がわかるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770700098
法人名	営利法人 株式会社 メディカル・ケアサービス
事業所名	グループホーム ミモザ園
所在地	香川県東かがわ市白鳥1754番地1
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 27 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770700098-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 7 日

【B棟が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みんな一緒に育むしあわせ」を介護理念に「今日は何をして楽しませてくれるんかいの？」と笑顔で言ってもらい期待に応えられるよう職員一同、寄り添い家族のように関わっています。「昔とった杵柄」で家族さん、孫さん、ひ孫さんに好みの絵を書いた暖簾を縫い、色を付けプレゼントしています。大変喜んで頂き後々へとつながるプレゼントへとなっています。あいにくコロナ禍の為、外出レクリエーションができず、行事(誕生会、お楽しみ会等)ごとに、おやつ作り等で気分転換を図り楽しんでもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域医療連携を主としている。3ユニットの管理者三人の意見が違つと「なぜ？」と、自問自答しながら、施設長を巻き込み、ベクトル調整をして実践している。現在、コロナ禍で外出が出来ない事を何か別の楽しみはないかと考察し、クッキング・レクとして新たに楽しみを増やしてみたら、「また、したい」と好評で、笑みが浮かんだ。前向きなアイデアを考える職員の集まりがあり、施設を盛り上げている。また、市の認知症イベントの依頼を受け、利用者が作成した大きな顔出しパネルの作品を展示したら好評となつたり、高校のマラソン大会の発着所となつて、休憩場所で、経口補助ゼリーを利用者が手渡ししたりして、エールを浴びる場となつたりして、利用者の人生を謳歌出来る一時ともなつた。地域の方と触れ合い、地域に当てにされ、地域と共に歩み、職員も、当たり前前を当たり前にして、生きがい分かち合っていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示している。又、職員のネームホルダーの裏面にも理念を書いたカードを入れて常時携帯し職員全員が共有し理念に沿った支援が実践できるよう努力している。	理念は、玄関と中央のフロアに掲示し、ネームホルダーに常時携帯している。年度初めに、個々で目標を掲げ、ユニット長に報告し達成度を図ろうと取り組んでいる。新入職者には、1ヶ月、マニュアルに添って先輩社員と同行を介して、オリエンテーションを行い、理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の集会、清掃活動等には参加しているが、昨年今年とコロナ禍の為、ボランティア訪問の踊り、歌声サロン、大正琴の慰問等の交流ができていないのが現状です。四季折々の花を地域住民の方が届けてくれている。	自治会(町内会)に加入し、地域の清掃活動や草刈り、集会に参加を続けている。市役所から展示会の出品依頼が来たので、事業所内の利用者が顔出しパネルの作品を出品した。また、高校のマラソン大会の発着場としてこの場所を提供して、利用者が経口補水液を手渡す事も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来園や電話にて施設入所の希望や介護保険の支援方法を説明したり認知症についての相談を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍の為、開催されていないが、関係者の方々には会議用の資料を配布し、市職員、包括支援センター、民生委員、自治会長、ご家族様より報告、電話での情報交換を参考にしサービス向上に努めている。	書面会議として隔月に開催をしている。市職員・民生委員・地域の代表・家族・法人代表が主なメンバーで、出来るだけ手渡ししているので、対面すれば情報交換の時間となっている。いつリアル開催出来るかな?と出口の見えない状況の先行きを気にし、地域の祭りの情報を交換している。	郵送はともかく、手渡しも増やして、一人一人の意見を聴ける様な質問をして、新しい取り組みを増やしては如何でしょうか?
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に事業所の実情やサービスの取り組みを相談し協力関係を築くようにしている。	窓口は施設長、ケアマネジャーが訪問している。年度替わりには、市職員も替わる事があるが、電話や出向していることで、何でも話せる関係となり、ざっくばらんな関係が築けている。	他の職員も出向いて、馴染みの関係を作っては如何でしょうか?
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が中心となり年二回必ず園内研修を行い全職員に周知指導を行い毎月、施設長、各棟の代表者で意見交換している。	身体拘束はしていない。職員持ち回りで講師役を務めて、キャリアの浅い人の教育の場も兼ねて、プレゼン形式で学んでいる。3ユニットが連結しているので、夜間の不穏症状にも連携体制が整い、特に、夜間のスピーチロックも、夜勤者同士が集まって「いいよいいよ」とみんなが助け合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを活用したり年二回の園内研修により理解を深め職員同士で注意を払い風通しの良い職場環境にすることで虐待が見過ごされることが無いよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人のついている入居者が自棟にいる。成年後見制度について棟会議時に学び職員全員が理解し活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明はケアマネージャー、管理者が行いご家族様には不安や疑問に対して理解、納得して頂ける様、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からの連絡、面会時やサービス担当者会議（現在電話連絡）時に意見や要望を引き出せるよう職員に周知している。	利用者には、往診や訪問歯科の場面で話しやすい雰囲気を作ったり、訪問歯科の時、入れ歯の修理をして、土台も毎月交換した方が良いと指示があり、家族に連絡をして、「お金がいたり、毎月大変だけど、健康維持には必要なものでどうでしょうか？」と質問して実現となった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各棟会議、担当者会議、ユニット長会議を行い意見交換し、問題点を話し合い反映させている。	会議の類の場面では、ケアの方向性や具体的な手法に関する事だったり、妊娠中の職員の働き方に配慮した申送りがなされたりする。プライベートな事は、勤務時間に職員が管理者に、隙間時間に気さくに話せ、ゲートキーパー役もいて、安心できる風土となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じた職員配置をし、各自が向上心を持つる職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年間の園内研修の計画を立て同系列施設の看護師の講師による園内研修の開催やベテランの職員や若い職員も講師となり園内研修を実施し月一回職員の資質向上に取り組んでいる。新人職員は個々の力量を把握しながら育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、定期的な交流はないが園外研修参加にて同業者との交流やネットワーク作りはできるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望を傾聴し気持ちをしっかりと受け止め職員同士が情報を共有しコミュニケーションが図れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望、キーパーソンになる方の思いを受け止め信頼関係を深めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族様の状態要望を傾聴し職員間で検討し最善のサービスが提供できるよう努めている。要望に対してできる限りの対応と園に早く馴染まれるようなサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する中でその方の個性、暮らし方、残存機能を知り相談しながらできる事を少しずつ増やしていけるよう関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、写真に言葉を添え状況報告している。コロナ禍の為、面会が出来ずオンライン面会、電話でのやりとりを通じご利用者の状態を連絡しお互いに協力し合って本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会することが出来ず手芸等でのれんを縫い、孫、ひ孫、知人へご利用者様よりプレゼントする事で大変喜ばれている。	on-line面会は好評。散歩コースやその敷地内の東屋、駐車場に咲く花、池の鳥・魚がいて、皆の馴染みの場所となっている。また、通院先の職員や通院途中が馴染みのドライブコース。靴の販売業者、米屋、牛乳配達、往診医等、施設に出入りされる方々は、すっかり馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、体操、レクリエーション、手芸、会話等により共通の趣味を楽しみ、ご利用者同士が関わり合い支え合うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も経過をお尋ねして困り事や相談事があれば応じている。次の移動先事業所の担当ケアマネージャーにも同様の対応を行い本人、家族を支えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや普段の会話の中から本人の想いを把握し本人の希望に沿った生活が送れる様、職員間で話し合い利用者からの想いをくみ取るようにしている。	意向を表現する事が困難な方には、表情やしぐさで生活パターンを図っている。どんな方にも、目線を合わせて話を窺い、安心感を与える為に、時には、そっと手を握ったり、そっと肌を触れて話を切り出す。そんな関わりを持つ事で、穏やかな空間を生み出そうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴等を把握し本人からの昔話や日々の会話の中から家族様にも話を聴き棟会議で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝昼のバイタル測定、介護記録を記入し本人の身体状況、表情、言葉からの精神的状況を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援の中で本人のニーズ課題が発生すればその都度検討し介護計画に反映させている。月に一度棟会議を行い介護計画の評価と見直しを行っている。	入居時のケアプランを1ヶ月後、その後は3ヶ月おきで見直ししている。モニタリングは毎月行い、プラン原案の作成時には、利用者・家族は元より、医療関係者の意見を盛り込んで、交付し実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス実践表や介護記録、連絡ノートに記入し職員間でニーズや問題点を随時検討し毎月の計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望、意向、ご本人の状態に応じた個別ケア、残存機能を引き出す事は迅速にサービスに取り入れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防署、地域のボランティア等に協力を要請し安全で豊かな暮らしができるよう支援している。コロナ禍の為、毎年楽しみにしていた祭り、獅子、奴、大正琴等の来園が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿った医療機関で適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医を選べるが、殆どの方が提携医に転医される。提携は職員が、他科は、家族が通院を介助する。かかりつけ医とは、何でも話せる関係となっていて、受診が楽しみとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や外来受診時に病院の看護師と情報共有し適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、病院と連絡を取り情報交換、状況確認をし、家族とも連絡を取っている。地域連携室も利用して関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご利用者ご家族へ重度化した場合の説明を行っている。重度化した場合、協力病院、関連施設等に状況の変化に合わせ早めから話し合いチームで支援している。	入居時の重要事項説明で、看取りはせず、重度化となったとき入院となる旨の承諾を得ている。重度化となったら、医師から今後について話が上がる。デスカンファレンスらしきことも、日々話し合い、生活介護のあり方に役立てようとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修等でマニュアルより応急手当や初期対応等、勉強会を行い実践力を身につける努力を絶やさない様にしている。又対応マニュアルを各棟の壁に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の為、消防署が立ち合う事ができてないが年二回消防訓練を行い全職員が訓練実施を行っている。スプリンクラーも設置している。	年2回、地震・火災の日中想定訓練を利用者と実施している。スプリンクラーも設置している。緊急連絡網とマニュアルを用意して、活用がすんなりできるように掲示している。備蓄は、3日分(水・おかゆ・コンロ等)用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとり意見に耳を傾け人格やプライバシーを尊重し状況を判断した対応を心掛けている。	呼称は、苗字に「さん」を付けるが、利用者二人きりの時、安心感を得て頂こうと、馴染みの呼ばれ方で話しかける事もある。入室時にノックや、肌の露出を出来るだけ抑える気遣いがある。何か失敗されても、平常心でその場の雰囲気乱さず関わる事を常としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情等からご本人の思いや希望を聞き取り自由に行動してもらっている。危険性やご本人の体調を考慮しながら自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の望むペースで日常を過ごしてもらうよう支援している。(食事、入浴時間は決まっている)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、自分で衣服を選んだり職員と一緒に選んだりしている。自分で身だしなみ出来る方は自分で行ってもらい出来ない方は職員と一緒にやっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは難しくなっているが職員と一緒にテーブルに座り食事を味わいながら、ご利用者にとって食事が楽しいものになるよう支援している。	三食手作りで、おやつは買って頂き、息抜きの楽しみとなっている。食事中は演歌のBGMが流れて和やかで、年間のレクリエーション計画にクッキングレクを盛り込み、ステイホーム期間の楽しみを分かち合っている。5～6人で囲める大きな円卓が印象的だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事水分摂取量を記録し一日を通して必要な量を確保している。嚥下状態に応じて食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、生活習慣とし自分で出来る方には声掛け見守りを行い出来ない方には個々に合わせ一部介助、全介助をしている。夕食後、入れ歯装着の方は洗浄剤を使用し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握、自分でトイレに行けない方、排泄の訴えがない方は定期的にトイレ誘導を行っている。自力にてトイレに行ける方は見守りを行い状況により失禁等の確認、パット交換を行っている。(オムツ使用者はいない)	排泄チェック表の活用と衛生材料の工夫が活きているので、機能維持や機能改善に成功した事例もある。ポータブルトイレは使っていない。そのようなケアが実践されているので、トイレ誘導は皆スムーズに行えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り自然排便を促すようにしている。レクリエーション、体操、歩行練習で体を動かしてもらったり水分摂取を多くしている。排便状況チェックをし服薬する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっているが一人ひとりの入浴方法や心境により時間や入浴日等を本人の希望に沿って順番を変える等、柔軟に対応している。	入浴は週2回だが、希望があれば、出来るだけ回数を増やすように対応している。嫌がる方には、曜日を固定せずに、また、人を変えたり、言葉かけを変えたり、相性の合う職員が就く等して対応したりしている。入浴回数や衛生は保たれ、季節浴の菖蒲湯・柚子湯が風物詩となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自然なリズムで夜間良眠できるよう日中はなるべく活動に参加してもらい安眠を支援している。昼食後、個々に合わせて休息時間が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書をファイルしており服用する薬の目的や副作用、用法、用量について誰もがチェック出来る体制を整えている。月に一度、医師への相談、月に二度、薬剤師の訪問薬剤管理指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなゲームを行ったりクラフト作り、のれん縫いにて次々と作品を完成させ居室内に飾り楽しまれたり家族さん、孫、ひ孫にプレゼントし大変喜ばれている。それが又、楽しみとなり意欲へと繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、季節ごとの花見、初詣、グループ内での外出、外食、買い物等、家族さんとの外出等が出来ない現状です。外出に変わる楽しみをグループ内で考えお好み焼き、ホットケーキ等作りなど気分転換が出来るよう支援している。	散歩は、気候が良ければ、ほぼ毎日行い、車いすの方も、自走したり介助で散歩を楽しむ。洗濯物を干して頂いたり、天気の良い時には、中庭でガーデンカフェを楽しんだりして、ストレスやフラストレーションの解消となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常は事務所で預り金として保管している。コロナ禍の為、一緒に買い物に行く事が今現在は出来ない。外出可能になれば、また職員と一緒に買い物に出掛け自分でお金を使う楽しみを支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いを書いてもらい、ご家族に送るように支援している。自棟には携帯電話を二名の方が持っておられ好きな時、好きな時間に家族知人に電話している。郵便物は本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地よく過ごせるよう清掃し、清潔を保っている。廊下には利用者の作品を飾り明るい雰囲気になっている。浴室、トイレは窓が大きく景色が見える。	扉を開けると、バラの香りがほのかに漂い、明るく健康的なリビングで、ワイワイガヤガヤと盛り上がるゲームをしている風景に出くわした。ユニットコーナーで一望が見渡せる中央に位置したリビングは、広々とスポーツが出来る感覚で、安心感が高く、職員とたつぷりと話ができる心のやり場となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にテレビを置き他入居者と話をしたり共通の趣味を楽しんだりしている。ホールにはソファを置き、いつでもくつろげるようにしている。一人になれる場所や他の方との交流場所を居心地良く過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の最初に縫ったのれんを戸口に飾り居室を間違えない様にし、馴染みの物、使い慣れた物や使いやすい物を使用し居心地良く落ち着いて過ごせるようにしている。	落ち着いた色合いと木目を生かした内装で、質温湿度共にフロアが一定に保たれていた。介護ベッドとエアコンとカーテンが備え付けられ、本人の使い慣れた筆筒や飾り棚に使い慣れた小物が持ち込まれており、家族写真や家族からの贈り物に囲まれた我が家らしさ感が良く伝わってきた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活が送れる様、食堂、廊下は広くバリアフリーで廊下には手すりを付けている。浴槽は手すり、バスグリップや滑り止めマットを使用、トイレには「トイレ」と貼り紙をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770700098		
法人名	営利法人 株式会社 メディカル・ケアサービス		
事業所名	グループホーム ミモザ園		
所在地	香川県東かがわ市白鳥1754番地1		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 27 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770700098-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 7 日		

【B棟が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みんな一緒に育むしあわせ」を介護理念に利用者職員一緒にしあわせを感じ笑顔で過ごせる様、寄り添い家族の様に関わって行きたい。そんなケアを目指しています。コロナ禍で活動の制限のある中、どうすれば楽しんで頂けるか、どうすれば気分転換になるか常に全職員が考え、園内レクリエーションを活用しコロナに負けず職員と一緒に大声で笑い良い表情を引き出しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域医療連携を主としている。3ユニットの管理者三人の意見が違うと「なぜ？」と、自問自答しながら、施設長を巻き込み、ベクトル調整をして実践している。現在、コロナ禍で外出が出来ない事を何か別の楽しみはないかと考察し、クッキング・レクとして新たに楽しみを増やしてみたら、「また、したい」と好評で、笑みが浮かんだ。前向きなアイデアを考える職員の集まりがあり、施設を盛り上げている。また、市の認知症イベントの依頼を受け、利用者が作成した大きな顔出しパネルの作品を展示したら好評となったり、高校のマラソン大会の発着所となって、休憩場所で、経口補助ゼリーを利用者が手渡ししたりして、エールを浴びる場となったりして、利用者の人生を謳歌出来る一時ともなった。地域の方と触れ合い、地域に当てにされ、地域と共に歩み、職員も、当たり前前を当たり前にして、生きがい分かち合っていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんな一緒に育む幸せ」を理念とし全職員が認識、共有し実践に繋げている。職員のネームホルダーの裏に理念を記入し常時携帯している。	理念は、玄関と中央のフロアに掲示し、ネームホルダーに常時携帯している。年度初めに、個々で目標を掲げ、ユニット長に報告し達成度を図ろうと取り組んでいる。新入職者には、1ヶ月、マニュアルに添って先輩社員と同行を介して、オリエンテーションを行い、理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。コロナ禍で集会等は中止になっているが地域の清掃活動に職員が参加している。	自治会(町内会)に加入し、地域の清掃活動や草刈り、集会に参加を続けている。市役所から展示会の出品依頼が来たので、事業所内の利用者が顔出しパネルの作品を出品した。また、高校のマラソン大会の発着場としてこの場所を提供して、利用者が経口補水液を手渡す事も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で制限はあるが来園や電話にて施設見学の希望、相談等があれば対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナ禍で中止しているが関係者の方々に会議の資料を配布し情報交換やアドバイス参考にサービスの向上に努めている。	書面会議として隔月に開催をしている。市職員・民生委員・地域の代表・家族・法人代表が主なメンバーで、出来るだけ手渡ししている。対面すれば情報交換の時間となっている。いつリアル開催出来るかな？と出口の見えない状況の先行きを気にし、地域の祭りの情報を交換している。	郵送はともかく、手渡しを増やして、一人一人の意見を聴ける様な質問をして、新しい取り組みを増やしては如何でしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連絡、報告、相談をし協力関係を築く様にしている。介護保険制度改正時等、相談をしている。	窓口は施設長、ケアマネジャーが訪問している。年度替わりには、市職員も替わる事があるが、電話や出向していることで、何でも話せる関係となり、ざっくばらんな関係が築けている。	他の職員も出向いて、馴染みの関係を作っては如何でしょうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の園内研修を行い全職員に対して周知、指導を行っている。身体拘束の三原則に留意し常に対策を検討している。	身体拘束はしていない。職員持ち回りで講師役を務めて、キャリアの浅い人の教育の場も兼ねて、プレゼン形式で学んでいる。3ユニットが連結しているので、夜間の不穏症状にも連携体制が整い、特に、夜間のスピーチロックも、夜勤者同士が集まって「いいよいいよ」とみんなが助け合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の園内研修を行い関連法について学び虐待が見過ごされることがない様、注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の付いている入居者様がいる為、現在コロナ禍で面会はないが電話連絡にて話を聞き理解したり活用できる様、努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は管理者、ケアマネージャーが行い利用者や家族等の不安な点、疑問点についてきちんと説明し理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で直接の面談は出来ないが電話連絡を行ったりサービス担当者会議では意見や要望を聞き全職員に周知し反映させている。	利用者には、往診や訪問歯科の場面で話しやすい雰囲気を作ったり、訪問歯科の時、入れ歯の修理をして、土台も毎月交換した方が良いと指示があり、家族に連絡をして、「お金がいたり、毎月大変だけど、健康維持には必要なものでどうでしょうか？」と質問して実現となった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の棟会議、ユニット長が揃う会議、委員会を開催し問題点や提案を聞く機会を設け反映させている。	会議の類の場面では、ケアの方向性や具体的な手法に関する事だったり、妊娠中の職員の働き方に配慮した申送りがなされたりする。プライベートな事は、勤務時間に職員が管理者に、隙間時間に気さくに話せ、ゲートキーパー役もいて、安心できる風土となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じた職員配置をし、各自がやりがいや向上心を持ち働ける様、環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年間の園内研修の計画を立て毎月、職員による園内研修や外部講師による研修を行い資質向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加した際、他事業所の同業者との交流にてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想い、困っている事、不安な事、要望等、表情より汲み取ったり傾聴しケアプランの作成をしている。全職員が課題解決に努め安心が確保できる様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安な事等、コロナ禍の為、電話連絡の際、傾聴し信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとユニット長が本人と家族に直接面談し必要としている支援を見極め検討し最善のサービス提供が出来る様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は見守りを行い出来ない事は声掛け、同意を得て手助けを行っている。洗濯物たたみ等、残存機能維持を行い職員と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や体調変化の際は電話連絡を行い定期的にサービス担当者会議に参加して頂き共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出が出来ないが家族や親戚等とオンライン面会にて支援をしている。又、本人に葉書を書いてもらって送っている。	on-line面会は好評。散歩コースやその敷地内の東屋、駐車場に咲く花、池の鳥・魚がいて、皆の馴染みの場所となっている。また、通院先の職員や通院途中が馴染みのドライブコース。靴の販売業者、米屋、牛乳配達、往診医等、施設に出入りされる方々は、すっかり馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立しない様、関わり合える場所、環境を提供している。関わりが難しい利用者については職員が間に入り一緒に楽しめる様、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先で会った際は経過を聞いている。相談があった際は傾聴し支援出来る様、努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員希望、意向の把握に努め希望や意向に添える様、努めている。外出希望等コロナ禍で出来ない事もあるが本人に説明し検討している。	意向を表現する事が困難な方には、表情やしぐさで生活パターンを図っている。どんな方にも、目線を合わせて話を窺い、安心感を与える為に、時には、そっと手を握ったり、そっと肌を触れて話を切り出す。そんな関りを持つ事で、穏やかな空間を生み出そうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境等、基本情報を全職員間で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方、言動、表情からの心身状態、有する力等、把握に努めている。日中、夜間の介護記録を記録し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意見を傾聴し毎月、棟会議にて施設長、ケアマネージャーを交え課題を出しそれぞれの意見、アイデアを提案し現状に即した介護計画を作成している。	入居時のケアプランを1ヶ月後、その後は3ヶ月おきで見直ししている。モニタリングは毎月行い、プラン原案の作成時には、利用者・家族は元より、医療関係者の意見を盛り込んで、交付し実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別の介護記録に記載し職員間で情報を共有し問題点や見直しが必要な時は随時検討し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに対応しサービスに取り入れ残存機能を維持出来る様、心掛け柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ禍で地域の祭り事や慰問、イベント等への参加はないが警察署や消防署等、地域に協力して頂き安全で豊かな暮らしが出来る様、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし適切な医療を受け特変時、緊急時には日中、夜間問わず報告、指示を受けている。毎月一回往診を受けている。	入居時にかかりつけ医を選べるが、殆どの方が提携医に転医される。提携は職員が、他科は、家族が通院を介助する。かかりつけ医とは、何でも話せる関係となっていて、受診が楽しみとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりの中でとらえた情報、気づきを医療機関、看護師等に報告、相談し適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換や相談に努め定期的に入院した際は(今はコロナ禍の為、面会できないが)様子を見に行っている。病院からも定期的に状態や治療内容の報告もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアマネージャーより入居時、本人、家族に重度化した場合、事業所で出来る事を説明し方針を共有し方向性について話し合っている。	入居時の重要事項説明で、看取りはせず、重度化となったとき入院となる旨の承諾を得ている。重度化となったら、医師から今後について話が上がる。デスクカンファレンスらしきことも、日々話し合い、生活介護のあり方に役立てようとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内研修や外部が行う研修に参加し応急手当や初期対応訓練を行っている。マニュアルも各棟、目に付く所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、年に二回火災や地震水害等の災害訓練を日中、夜間と想定し行っている。コロナ禍前には消防署立ち合いの元、訓練を実施し全職員が消火方法、避難方法を身に付けている。	年2回、地震・火災の日中想定訓練を利用者と実施している。スプリンクラーも設置している。緊急連絡網とマニュアルを用意して、活用がすんなりできるように掲示している。備蓄は、3日分(水・おかゆ・コンロ等)用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	人権を尊重し誇りやプライバシーを損なわない言葉掛けに努めている。	呼称は、苗字に「さん」を付けるが、利用者二人きりの時、安心感を得て頂こうと、馴染みの呼ばれ方で話しかける事もある。入室時にノックや、肌の露出を出来るだけ抑える気遣いがある。何か失敗されても、平常心でその場の雰囲気乱さず関わる事を常としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せられる対応を行ったり自己決定出来る様な声掛け関わりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に強制ではなく一日をどの様に過ごしたいかを聞き希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様、衣類は自分で選んで頂き選べない方には意見を聞きながら職員と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が苦痛にならない様、その人に合った形態にて提供し職員と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。食事後はテーブル拭き等をお願いしている。	三食手作りで、おやつは買ってきて頂き、息抜きの楽しみとなっている。食事中は演歌のBGMが流れて和やかで、年間のレクリエーション計画にクッキングレクを盛り込み、ステイホーム期間の楽しみを分かち合っている。5～6人で囲める大きな円卓が印象的だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個別に記載し確保出来る様にしている。病状により水分制限、食事制限のある利用者については医師の指示の元、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた声掛け、誘導、見守り、介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄表を付け排泄パターンを把握している。尿意、便意のある方は習慣を活かし見守りを行い尿意、便意のない方はパターンに合わせ誘導を行っている。定期的に誘導を行う事で失敗を減らす様、支援している。	排泄チェック表の活用と衛生材料の工夫が活きているので、機能維持や機能改善に成功した事例もある。ポータブルトイレは使っていない。その様なケアが実践されているので、トイレ誘導は皆スムーズに行えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫に牛乳、ヨーグルトを摂取している。毎日のレクリエーションにて運動を取り入れ園内、ホールを歩行し便秘予防に取り組んでいる。状況により服薬する時もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回行っている。拒否は少ないが拒否があった場合は無理強いせず日にち、時間帯をずらしている。個々に添った支援を行っている。	入浴は週2回だが、希望があれば、出来るだけ回数を増やすように対応している。嫌がる方には、曜日を固定せず、また、人を変えたり、言葉かけを変えたり、相性の合う職員が就く等して対応したりしている。入浴回数や衛生は保たれ、季節浴の菖蒲湯・柚子湯が風物詩となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調状況に合わせて臥床している。夜間安心して気持ちよく眠れる様に日中、運動やレクリエーション等で体を動かしたり居室内の環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師よりの薬の目的、副作用、用法、用量の説明書をファイルし処方時には必ず目を通し理解している。薬剤師、来園時には薬剤指導を受けている。服薬は介助見守りにて確実にやっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力に合わせて洗濯物たたみやハンガー掛けを行い合同レクリエーションや棟内レクリエーションを行い楽しみ事、気分転換等の支援を行っている。外出願望のある方はコロナ禍で難しい為、中庭散歩を行い気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で現在難しい。どうしても外出したいと言う利用者については車で地域をドライブし気分転換になる様、支援している。	散歩は、気候が良ければ、ほぼ毎日行い、車いすの方も、自走したり介助で散歩を楽しむ。洗濯物を干して頂いたり、天気の良い時には、中庭でガーデンカフェを楽しんだりして、ストレスやフラストレーションの解消となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かり事務所で管理している。外出時には欲しい物を購入し支払いは自分で出来る様、支援していたがコロナ禍で現在は行けていない。現金を所持する事で納得する利用者には家族と相談し所持、自分で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者が居て、自ら電話が出来る環境にしている。手紙のやりとりも暑中見舞いや年賀状に本人が文章を記載し家族宛に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日清掃し清潔に保っている。不快や混乱を招く様な物もない。ホール、棟内には季節感を採り入れる作品や生花を飾っている。3ユニット自由に移動が出来、レクリエーションに参加したり会話したりと居心地良く過ごす事が出来る。	扉を開けると、バラの香りがほのかに漂い、明るく健康的なリビングで、ワイワイガヤガヤと盛り上がるゲームをしている風景に出くわした。ユニットコーナーで一望が見渡せる中央に位置したリビングは、広々とスポーツが出来る感覚で、安心感が高く、職員とたっぷりと話ができる心のやり場となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、ユニット内にはソファや椅子があり気の合った利用者同士で会話したり思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた使い慣れた物や好みの物を持参し、ぬいぐるみや家族の写真や思い出の写真を飾り居心地良く過ごせる様、工夫している。	落ち着いた色合いと木目を生かした内装で、質温湿度共にフロアが一定に保たれていた。介護ベッドとエアコンとカーテンが備え付けられ、本人の使い慣れた筆筒や飾り棚に使い慣れた小物が持ち込まれており、家族写真や家族からの贈り物に囲まれた我が家らしさ感が良く伝わってきた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには名前を印字しトイレの場所も分かりやすく貼り紙をしている。諸所には手摺りが設置されており安全で自立した生活が送れる様、工夫している。		